川崎市社会福祉協議会　ボランティア活動振興センター

地域福祉情報バンク通信

2022年 冬号
季刊（No.53）

発行：川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター 地域福祉情報バンク
川崎市中原区上小田中6-22-5　川崎市総合福祉センター 6階
電話:044-739-8720／FAX:044-739-8739／E-mail:jyoho@csw-kawasaki.or.jp

2022年冬号の内容は…

★専門相談のご案内
★「傾聴」に関する図書・DVDの紹介
★赤い羽根共同募金・ボランティア活動保険・障害者相談支援センター
★新着図書&DVDの紹介

弁護士・精神科医師・臨床心理士による　専門相談のご案内

川崎市社会福祉協議会では、川崎市民（在勤・在学も含む）の方を対象に、弁護士・精神科医師・臨床心理士による相談をお受けしています。相談料は無料、予約制です。来所での相談となりますので、事前にふくし相談（044-739-8719）までご連絡ください。

【法律に関する相談】　相談員：弁護士　　月2回：金曜日（1回30分間）

法律問題（相続・離婚・借金・不動産・近隣問題など）で、お困りの方の相談をお受けします。（その後の書類作成・交渉などはいたしません。）

【心の病・認知症などに関する相談】　相談員：精神科医師　　月2回：木曜日（1回50分間）

気分が落ち込む日が続いている・不安やイライラすることが多い・眠れない・物忘れがひどくなったなど。ご家族の方の相談もお受けします。

【人間関係や心理的な悩みなどの相談】　相談員：臨床心理士　　月2回：火曜日（1回50分間）

人間関係の悩み・心理的な悩み・家族の問題・こころとからだの不調・気持ちの整理をしたいなどの相談をお受けします。

※相談内容によっては他の相談機関をご紹介させていただく場合があります。また、精神科医師・臨床心理士の相談をご希望で、通院されている方は、お断りする場合がありますのでご了承ください。

相談日の詳しい日程は川崎市社会福祉協議会のHPをご覧ください。
http://www.csw-kawasaki.or.jp/contents/hp0285/index00360000.html

弁護士・司法書士・社会福祉士による 成年後見制度に関する専門相談

成年後見制度に関すること全般について、実際に成年後見等の実務を行っている専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）が相談をお受けします。対象は市内在住の方、およびそのご家族・支援者となっています。相談料は無料、予約制です。基本的には来所での相談になりますので、事前に川崎市成年後見支援センター（044-712-8071）までご連絡ください。

相談日の詳しい日程はこちらをご覧ください
http://www.csw-kawasaki.or.jp/contents/hp0433/index02470000.html

特集

「傾聴」に関する図書・DVDの紹介

～地域福祉情報バンクで貸出しています～

人に話を聞いてもらうことで、心が軽くなったり、気持ちがスッキリしたり、自分の考えがまとまったりすることがあります。そのような時は、相手の聴き方が上手なのでしょう。一方、聞き流されたり、否定的なことを言われたりすると、話さなければよかったという気持ちになります。

「傾聴」とは、相手の言葉に耳も心も傾け、否定せず、相手の身になって共感し、理解しようとする「会話の技術」です。人はどうしても自分の話をしたくなるため、人の話を聴くというのは簡単な事ではありません。

相手の話をきちんと聴くことができていますか？ 我が身を顧みて、改めて「傾聴」について学んでみてはいかがでしょうか？

人の心を動かす　傾聴のコツ

まずは相手の言うことを全肯定する。話の裏にある“核心”をどう見つけるか。なぜ、この人と話すと心がラクになるのか…等。傾聴の達人が教える、人に求められる人、信頼される人になるためのコミュニケーションの極意。

（金田諦應:著/三笠書房/2018年発行）

マンガでやさしくわかる　傾聴

福祉や医療、教育の現場はもちろん、普段の生活における周囲とのコミュニケーションで大切になる「聴く技術」と、その前に知っておきたい人間の心理をマンガのストーリーと解説で学べる一冊。

（古宮昇:著/日本能率協会マネジメントセンター/2017年発行）

傾聴力　相手の心をひらき、信頼を深める

現場の第一線で活躍する緩和ケア医である著者が、相手が元気になる「聴き方」を教えます。医療・介護現場のプロが必ず実践している本当の「聴く力」。「傾聴」で大切な人が元気になります。

（大津秀一:著/大和書房/2020年発行）

8050　親の「傾聴」が子どもを救う

子どもの話にただひたすら耳を傾け、心で聴くこと。さえぎり・反論・評価をせず、最後まで言い切らせること。話を受け止め、子どもの心の奥底にあるつらさや悲しさを理解し、同じ気持ちになろうと努めること。親の「傾聴・共感」こそ、中高年のひきこもりを絶望から救う最強の薬！

（最上悠:著/マキノ出版/2021年発行）

精神科医が教える　聴く技術

人の話を聴くことは難しいが、本当に聴けた時には相手の人生を変えるほどの効果がある。 精神科医であり、多くのカウンセラーを育てた著者が教える「聴く技術」。四つのステップに分けて、事例と共にわかりやすく解説する。「聴く」ことの驚くべき深い世界を知ってほしい。

（高橋和巳:著/筑摩書房/2019年発行）

相談面接の技法（DVD）

相談面接で使われる基本的な技法（インテーク面接・傾聴・受容・共感・言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション等）を取り上げ、ドラマ仕立ての事例を通して解説します。

（高山恵理子:監修/アローウィン/2018年発行/48分）

じぶんの町を良くするしくみ（赤い羽根共同募金）

共同募金とは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する取り組みです。

今年度も「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」を全国共通の助成テーマとして、ひとり親世帯や高齢者の緊急支援、フードバンク活動の応援など、コロナ禍でも地域福祉活動を推進できるよう、助成活動を実施しています。

赤い羽根共同募金でお寄せいただいたご寄付は、神奈川県共同募金会を通じて、県内の民間社会福祉施設や障害者地域作業所へ。さらには、社会福祉協議会を通じて、市内の支援の必要な方々や団体に配分させていただきます。また、大規模災害時には被災者支援活動にも活用させていただきます。

だれもが安心して暮らせるまちづくりを推進するために、今年も皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。「赤い羽根共同募金」は3月31日まで実施しています。

赤い羽根共同募金のつかいみちについては
赤い羽根データベース「はねっと」をご覧ください。
https://hanett.akaihane.or.jp/hanett/pub/home

令和4年度ボランティア活動保険の受付が始まります

ボランティア活動保険は年度ごとの加入となっており、今年度の補償期間は3月31日で終了となります。補償期間が終了する前に次年度の加入手続きを行うこともできますので、川崎市社会福祉協議会および各区社会福祉協議会までお問い合わせください。

また、ゆうちょ銀行では、令和4年1月17日から払込み手数料が改定されます。それに伴い、ボランティア活動保険の加入手続き方法が一部変更となる予定です。決定次第、川崎市社会福祉協議会のホームページにてお知らせいたしますので、ご確認ください。

「ふくしの保険」HPはこちらから
https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/top.php

障害者相談支援センターが地区担当制になりました

障害者相談支援センターとは、障害のある方やそのご家族等に関する身近な相談窓口です。暮らし・福祉・健康・仕事など様々な相談に応じています。

令和3年10月から地域相談支援センターが地区担当制になりました。また、各区にありました基幹相談支援センターは、南部（川崎・幸）、中部（中原・高津・宮前）、北部（多摩・麻生）の3ヶ所となりました。お住いの地区の相談支援センターをご確認ください。なお、区内の他のセンターに相談することもできます。これまでの利用者は引き続き、従前のセンターを利用することができます。

リーフレットは川崎市社会福祉協議会でも配布していますので、ご利用ください。

障害者相談支援センターについては、川崎市のHPをご覧ください。
https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000021966.html

新着図書&DVDの紹介

【図書】（書名／著者・編者名／出版社）

●家族遺棄社会　孤立、無縁、放置の果てに。／菅野久美子／KADOKAWA

●ヤングでは終わらないヤングケアラー／仲田海人・木村諭志／クリエイツかもがわ

●護られなかった者たちへ（文庫）／中山七里／宝島社

●非行・犯罪からの立ち直り　保護観察における支援の実際／長尾和哉／金剛出版

●共生社会の教養　プラスのコミュニケーションですべての人が暮らしやすい社会をつくる／共用品推進機構／経済法令研究会

●マンガでわかる成年後見制度／中山二基子・秋田綾子／講談社

●今日から成年後見人になりました（第2版）／児島明日美・村山澄江／自由国民社

●認知症世界の歩き方／筧裕介／ライツ社

●マンガでわかる！認知症の人が見ている世界／川畑智・遠藤英俊／文響社

●おひとりさまの終活まるわかり読本／税理士法人レガシィ／PHP研究所

●ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2／ブレイディみかこ／新潮社

●子どもたちがつくる町　大阪・西成の子育て支援／村上靖彦／世界思想社

●すき間の子ども、すき間の支援／村上靖彦／明石書店

●「困難事例」を解きほぐす　多職種・多機関の連携に向けた全方位型アセスメント／伊藤健次・土屋幸己・竹端寛／現代書館

●伴走型支援　新しい支援と社会のカタチ／奥田知志・原田正樹／有斐閣

●在宅医療の真実／小豆畑丈夫／光文社

●家族のための「在宅医療」読本／内田貞輔／幻冬舎

●こどもホスピス　限りある小さな命が輝く場所／田川尚登／新泉社

●死ぬまで噛んで食べる　誤嚥性肺炎を防ぐ12の鉄則／五島朋幸／光文社

●オープンダイアローグ　私たちはこうしてる／森川すいめい／医学書院

●ライオンのおやつ／小川糸／ポプラ社

●マインドフル・セルフ・コンパッション入門　自分を思いやるレッスン／岸本早苗／大和書房

●おうちで死にたい　自然で穏やかな最後の日々①～⑤／広田奈都美／秋田書店

●もしかして、適応障害？　会社で“壊れそう”と思ったら／森下克也／CCCメディアハウス

●コーチングよりも大切なカウンセリングの技術／小倉広／日本経済新聞出版

●新 コーチングが人を活かす／鈴木義幸／ディスカヴァー・トゥエンティワン

●ステップファミリー　子どもから見た離婚・再婚／野沢慎司・菊地真理／KADOKAWA

●傘のさし方がわからない／岸田奈美／小学館

●もうあかんわ日記／岸田奈美／ライツ社

●もしわたしが「株式会社流山市」の人事部長だったら／手塚純子／木楽舎

●夜が明ける／西加奈子／新潮社

【DVD】（題名／制作・販売／仕様）

●自傷　やめたい！ でもやめられない／地域精神保健福祉機構　COMHBO／115分

地域福祉情報バンクは、平日8：30～17：00まで開所しております。毎月第4水曜日は、川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）の保守点検日のため、17：00以降に1階受付窓口での図書・DVDの返却ができませんのでご注意ください。

図書館では何百人も予約待ちとなっている本（例えば「52ヘルツのクジラたち」「そして、バトンは渡された」「小説8050」など）も、地域福祉情報バンクではすぐに借りることができますので、是非ご利用ください。また、皆様からのリクエストもお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。2022年が皆様にとって幸多き1年となりますように…。（ま）

「地域福祉情報バンク通信」についてのご意見・ご感想などを是非お寄せください。

E-mail：jyoho@csw-kawasaki.or.jp
電　話　：044-739-8720 ／ FAX：044-739-8739

蔵書検索は『ふくみみ』で！
http://k-fukumimi.com

イラスト：いらすとや